

ネイティブトリチラクウムアルBUMプロテイナーゼK

Cat. No. NATE-0221

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明 プロテイナーゼKは、安定しており非常に反 \square 性の高いセリンプロテアーゼです。結晶および分子構造の研究からの証 \square は、この酵素がサブチリシンファミリーに属し、活性部位の触媒トライアド (Asp39-His69-Ser224) を持つことを示しています。これは、広範 \square の環境 (pH、バッファー塩、洗剤 (SDS)、および温度) で安定しています。0.1-0.5%のSDSが存在する場合、プロテイナーゼKは活性を保持し、DNA調製物中のさまざまなタンパク質やヌクレアーゼを消化し、分離されたDNAの完全性を損なうことはありません。

用途 プロテイナーゼKは、DNAおよびRNAの分離中にヌクレアーゼのプロテオリティック不活化に役立ちます。これは、リゾチームやリボヌクレアーゼAなどのカチオン性タンパク質に結合したエンドトキシンの除去に使用されます。また、肝臓、酵母、mung豆のミトコンドリアの分離にも役立ち、膜上の酵素の局在を決定するために使用されます。さらに、抗原結合部位を露出させるためにパラフィン埋め込み組織切片の処理に使用され、脳組織サンプルからのタンパク質の消化にも使用されます。この製品は、シルクフィブロインに \square する前処理効果を研究するために使用されました。この研究で分析された側面には、ハイドロキシアパタイト (HAp) の結晶学的特性、複合材料の微細構造および微小硬度が含まれます。この酵素は、FISH技術を使用して病原性黄色ブドウ球菌を \square 出するために、rRNAへのプローブのアクセスを促進するためにも使用されました。DNAおよびRNAの分離中にヌクレアーゼのプロテオリティック不活化に役立ちます。リゾチームやリボヌクレアーゼAなどのカチオン性タンパク質に結合するエンドトキシンを除去します。肝臓、酵母、mung豆のミトコンドリアの分離に役立つと報告されています。膜上の酵素の局在の決定。抗体ラベリングのための抗原結合部位を露出させるためのパラフィン埋め込み組織切片の処理。伝染性海綿状脳症 (TSE) 研究におけるプリオンのための脳組織サンプルからのタンパク質の消化。

別名 トリチラクウムアルカリプロテイナーゼ; トリチラクウムアルBUMセリンプロテイナーゼ; プロテイナーゼK; トリチラクウムアルBUMプロテイナーゼK; エンドペプチダーゼK; EC 3.4.21.64; 39450-01-6

製品情報

由来	トリチラクウム・アルBUM
形態	凍結乾燥粉末または緩衝液グリセロール溶液
EC番号	EC 3.4.21.64
CAS登録番号	39450-01-6
分子量	28.93 kDa
活性	3.0-15.0 単位/mg 固体; > 30 単位/mg タンパク質; > 800 単位/mL; > 500 単位/mL
単位定義	1ユニットは、pH 7.5、37°Cで1.0 μ moleのチロシンに相当する色を生成するために、尿素 \square 性ヘモグロビンを加水分解します。